

## 政務調査費による視察研修報告

福島町議会議員 平野隆雄

日時 平成 21 年 11 月 13 日

視察場所 青森県東通村 産業振興後社・尻屋漁業協働組合

視察目的 地域産業の発展、特産品のブランド開発、地産地消や行政、農家漁民が密着した事業体制の将来的な可能性を図る。

### 考察① 産業振興公社

ブルーベリーを活用した地域産業の振興について視察をしたが、人件費など補助金に依存しており、ブルーベリーは販売が難しく、また外国産物の輸入など問題があり、福島町での取り組みに不安を覚えると共に、相当な研究なり専門的指導が必要と思われた。

### 考察② 尻屋漁業協同組合

塩ウニの瓶詰めを組合独自のインターネットで販売し、順調に売上高を延ばしている取り組みは福島町の塩水ウニよりも保存も利き組合員自身の意識改革がなされ、後継者の育成、ダイバー免許の取得など事業に対する姿勢に驚愕した。

福島町の今後の取り組みや研究に期待をしたい。

## 政務調査費による視察研修報告

福島町議会議員 平野隆雄

日時 平成 21 年 11 月 14 日

視察目的 当町でも養殖している、いとうの養殖現状とブランド化しての販売方法など視察する。また相撲館「舞の海故郷棧敷」を視察し、町の相撲による町づくりへの取り組みと指導方法など現状の調査をする。

視察場所 青森県鯺ヶ沢町 赤石水産漁業協同組合いとう養殖部会  
鯺ヶ沢相撲館

考察① 養殖部会の取り組み、幻の魚と言うブランド化している現状は理解できたが当町の現状では商品化はもとより、今後の事業としては問題点が有りすぎて議論にならないと思われた。

考察② 国技相撲で青少年の健全育成を図り各種大会で好成績を収めている鯺ヶ沢の現状と日常の取り組み、町の応援や指導者の意識の高さに驚かされた。町の職員に相撲経験者を 15 人も採用しており、行政・町を挙げての支援体制は見習うものがある。偉大な二人の横綱の里として、また平成 23 年に開催が決定している全中相撲選手権大会への体制作りの資料としたい。

# 政務調査報告書

福島町議会議員 平野隆雄

調査日時 平成 22 年 3 月 2 4 日—3 月 2 5 日

調査場所 北海道立栽培水産試験場

いぶり噴火湾漁協伊達温水養殖センター

視察内容等

## ① 北海道立栽培水産試験場

担当者より、ナマコに関する歴史や生態・現状及び養殖に対する問題点や課題点の説明を受けてその後質疑応答。

**考察** ナマコの放流についての調査は大変難しいものがあり、残留率等は正確につかめないし、場所による適正など海峡が違っていると生態系に懸念が在り、日本海と津軽海峡の環境相違による疑問点にどのように対応すべきか問題だと思う。

放流に関しても、種苗が大きいと残留率が高くなる反面値段が高くなる問題があり、地元の親から獲った稚仔を放流した方が良いと言う水試の考えに同調できる。

## ② 伊達温水養殖センター

担当者より資料・センターの現状を説明受け、質疑応答。

**考察** 採卵、稚子の育成は、ある程度確立されてはきたが、データ的には、つかめていない。

コスト削減のため育成を短期間で実施するため餌さ代が小額で済む。採卵方法はマニュアルが確定しており、水温と親ナマコの成熟度により難しいものではない。

津軽海峡と日本海では海流の違いから生態系に懸念がある。

稚子の売買に関しては道からみの規制に触れる恐れがある。

センターでは、前浜の珪藻をナマコの餌さに使用して餌さ代が掛からない育成に成功しており、福島の子ナマコを提供して稚子を栽培育成してから、福島の海に放流する方法が現時点では最適と考えられる。

説明の中で、民間からの稚子購入に関しては話がなかった。

二箇所の視察であったが、どうしても専門的な知識・技術を要する職員の確保が大変な課題と思われる。